

■梶原景時 武将。義経を讒言で失脚させるなど、源頼朝の信任を得て権勢を振るうも、頼朝死去で自らが失脚。

かじわらかげとき

西行出家・・・1140＝ この頃、相模国で生まれる。父は鎌倉五郎景清(一説に景長)。

武将・義経讒言し討滅

・・・・・・1149＝ 9歳：

保元の乱・・・1156＝16歳：

後白河院政始1158＝18歳：

平治の乱・・・1159＝19歳：

・・・・・・1160＝20歳： 源頼朝と対面。

清盛大政大臣1167＝27歳：

・・・・・・1174＝34歳：尾張国羽黒に興禅寺を創建。

・・・・・・1176＝36歳：

源氏一斉蜂起1180＝40歳：石橋山合戦に際し、一族の大庭景親とともに平氏側に属して頼朝軍を破ったが、ひそかに頼朝に心を寄せ、逃走した頼朝の在所を知りながらこれを故意に見逃してその窮地を救った。

平清盛没・・・1181＝41歳：*頼朝のもとに参向し、それ以後大いに信任された。

後鳥羽天皇・1183＝43歳：頼朝の命により上総広常を暗殺。

・・・・・・1184＝44歳：源義仲追討には、源範頼・義経に従って功をあげ、さらに一の谷合戦でも、範頼のもとで奮戦して戦功を立て、合戦後に播磨・美作両国を守護するよう命じられた。

平氏滅亡・・・1185＝45歳：*義経とともに屋島の合戦で平氏を打ち破った際、義経との間で作戦上の問題をめぐって口論、結局、主張した逆櫓の策は退けられ、以後、義経に真向から対立、ついに頼朝に義経を讒訴し、失脚に至らせる。京都的な教養を備えた有能な武将であったことから、その後も頼朝の厚い信任を受けるが、反面で官僚的性格が濃く、強い権勢欲もあって、侍所所司兼厩別当などの要職に進んで大いに権勢を振るう。

九条兼実摂政1186＝46歳：都築経家の赦免を上奏。

藤原秀衡没・1187＝47歳： 畠山重忠の謀叛を頼朝に報告。

・・・・・・1188＝48歳：飯田次郎の赦免を上奏。

奥州藤原滅亡1189＝49歳：武藤資頼の赦免を上奏。城長茂の奥州合戦参加を上奏。

臨濟宗始・・・1191＝51歳：武蔵国八王子に八幡神社を勧進。

鎌倉幕府始・1192＝52歳：城長茂・本吉高衡の赦免を上奏。武蔵国大井に萬福寺を創建。侍所の所司であった景時は、たまたま親の忌に服した侍所別当の和田義盛に請い、臨時に別当職を預かったが、以後それを返さなかった。このような景時の性格が災して、他の御家人たちと相容れないところが多く、
・・・・・・1194＝54歳：鎌倉道路造り奉行となる。

東大寺再建完1195＝55歳：頼朝の代理として住吉社に和歌を奉納。

源頼朝没・・・1199＝59歳：*頼朝が死去し、頼家の代になると、北条時政らを中心として宿老13名の合議制がとられることになり、その一員として、幕府内部で隠然たる勢力をもっていたが、結城七郎朝光を頼家に叛意を抱く者として讒言したことから、千葉・三浦・和田などの諸将の反発を招き、その結果、有力御家人66名からなる景時排斥の弾劾文が將軍頼家に提出され、何の申し開きもできなかったため、鎌倉を追われ、一族を率いて相模国一宮に逃れた。やがて景時は謀反を企て、甲斐の武田有義を擁立し、京都に赴いて幕府に対抗しようとしたが、
梶原景時征討1200＝60歳：*上洛中、駿河国清見関付近の狐崎で在地御家人との合戦となり、ついには矢部小次郎に討たれ、一族とともに戦死した。こうして梶原一族は滅亡し、美作国守護職以下の梶原氏の所領は収公された。